

令和6年度第3回さいたま市社会教育委員会議 次第

(第12期第5回会議)

日時：令和6年11月25日（月）

10時00分から

会場：市役所第二別館 2階
教育委員会室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 報告事項

- ・ 前回会議について
- ・ 第66回全国社会教育研究大会 茨城大会について

(2) 協議事項

- ・ 第12期社会教育委員会議 提言の作成について

4 連 絡

5 閉 会

令和6年度第3回(第12期第5回)さいたま市社会教育委員会議 出席者名簿

No.	氏名	選出母体等	備考
1	石川 敬史	十文字学園女子大学教授	副議長
2	石崎 敬吾	さいたま市中学校長会	欠席
3	井上 久雄	青少年育成さいたま市民会議副会長	
4	今川 夏如	さいたま市PTA協議会前副会長	
5	加藤 美幸	十文字学園女子大学学修支援員	
6	小林 玲子	公民館運営審議会委員	欠席
7	佐野 操	埼玉県家庭教育アドバイザー	
8	澁谷 知範	公募委員	
9	関根 広美	特定非営利活動法人さいたまNPOセンター 専任委員	
10	鶴ヶ谷 柊子	浦和大学講師	欠席
11	林 弘樹	映画監督	
12	藤田 成司	さいたま市立小学校校長会	欠席
13	吉川 洋一	(公財)さいたま市スポーツ協会副会長	欠席
14	吉沢 浩之	さいたま商工会議所常務理事	欠席
15	若原 幸範	聖学院大学准教授	議長

(50音順)

(事務局)

1	佐野 公子	教育委員会事務局生涯学習部長
2	辰市 健太郎	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課参事兼課長
3	玉城 伸	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	石田 悦子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長補佐兼企画振興係長
5	管野 敬之	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課家庭地域連携係主幹
6	三村 悟	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主査
7	伊藤 智美	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主査
8	駒井 友里香	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主事
9	井出 浩史	教育委員会生涯学習総合センター参事兼副館長
10	阿久津 玲子	教育委員会中央図書館資料サービス課長補佐

令和6年度第2回（第12期第4回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

開催日時：令和6年9月3日（火）14時00分～15時30分

開催場所：ときわ会館 小ホール

出席者名：【委員】若原 幸範議長、石川 敬史副議長、今川 夏如委員、
加藤 美幸委員、佐野 操委員、澁谷 知範委員、
関根 広美委員、藤田 成司委員、

【認定NPO法人みんなの夢の音楽隊】

今川 夏如様（第12期社会教育委員）、井上 綾様

【事務局】（生涯学習部）佐野 公子

（生学習振興課）辰市 健太郎、玉城 伸、石田 悦子、
三村 悟、伊藤 智美、駒井 友里香

（資料サービス課）中島 孝一

欠席者名：石崎 敬吾委員、井上 久雄委員、小林 玲子委員、鶴ヶ谷 柊子委員、
林 弘樹委員、吉川 洋一委員、吉沢 浩之委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 前回会議について

令和6年度第1回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

(2) 第12期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

ア 事業説明

資料2に基づき、認定NPO法人みんなの夢の音楽隊様より、夢桜さいたま祭り・まちフェス桜の事業概要の説明を行った。

【質疑応答・意見】

<若原議長>

活動している大人が自然と繋がっていくということが印象的だったが、何か働きかけを行っているのか。

<認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

活動している人々が繋がっていくことを意識している。意図的になにか働きかけをしていることはないが、その場限りの関わりで終わらせず、繋がりを大切にしたいというような雰囲気が作られている。

<加藤委員>

しびらき祭りと一緒にやることになったきっかけ、まちフェスとしびらき祭りに参加している市民団体はかぶっているのか、今後、様々な障害者施設と事業を行う計画はあるのかという3点について伺いたい。

<NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

第1回目の夢桜さいたまつりとまちフェス桜の開催日としびらき祭りと重なったことが一緒に行くきっかけとなった。多くの市民団体がまちフェスにもしびらき祭りにも参加しているが、あえて参加を募集したり、積極的に関わろうとしたりしているわけではないので、障害者施設との関わりについては特に予定はない。

<澁谷委員>

事前に目的や目標、構成員等を明確に定めてから活動する組織ではなく、活動の展開に応じて多様な繋がりを構築していくネットワークのような組織であると認識したが、あっているか。また、協議課題の一つに働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくりがあるが、夢桜さいたまつりやまちフェス桜の活動では生涯学習をどのように捉えることができるのか、特に働く世代という部分と結びつくことがあれば教えていただきたい。

<NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

組織自体のイメージは澁谷委員のご認識のとおりである。夢桜さいたまつりやまちフェス桜は働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくりを目的にはしていない。目的を定めて、目的のために事業に携わるのではなく、それぞれが経験を活かして自分自身のみで関わることを求めており、その結果として参加者が偶然に新たな気づきや発見等を得ることがあり、働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけに繋がると考えている。そのため、何かを指導するというのではなく、横の対等な繋がりを重要視して組織を作っている。

<佐野委員>

事業の概要等を聞いて、ウェルビーイングを感じた。この地域で子育てができてよかった、この地域に生まれてよかったと感じることに繋がると思う。

<関根委員>

これらの事業はもう少し早く始められたのではないか。

<認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊>

事業を始めたいという声があがってから、準備の期間が必要だった。準備を進めていくうえで参加する団体や開催する場所等が増え、必要な準備ややりたいことも増えたので、ある程度の準備期間が必要だった。ただ、準備期間が長すぎると疲れてしまうということもあるので、長くかかりすぎないように配慮した。

イ グループワーク

<A グループ（発表者：澁谷委員）>

第一に、目的を事前に明確に定めていないとしつつも、子どもたちのために地域に繋がりを持ちたり、何かを学んだりしてほしいという思いを共有すること。第二に、参加者の偶然的な繋がりを生み出すような仕掛け作りを行うこと。第三に、各人が持つ知見や経験、地域の資源・資産を活動にできる仕組みを作ること、が必要であるとの意見が出た。

また、ウェルビーイングが重要なキーワードとして挙がり、楽しさや偶然から得られるワクワク感が働く世代の生涯学習を進めるうえでとても重要と考えた。さらに、子どもも準備段階からこのような活動に参加するという事は、将来大人になった時に次の世代に地域を通じて働きかけを行うきっかけとなる可能性があると感じ、大きな意義があるという意見も出た。

<B グループ（発表者：加藤委員）>

子どもや地域のためにというような、住んでいる人々が共通の目標にしやすいものを取り上げているのが良いと感じた。PTA 等の既存の団体の存在や、課題を解決しなければならぬということがきっかけになることがある。また、知人に誘われたり、紹介されたりして活動に参加することが生涯学習の取組や原動力になることもある。経験や得意なことを活かして自分らしく活動できることや、緩やかな組織の繋がりの中で無理せず活動できることが良さであると感じた。

また、地域課題や働く世代、子どもたちとの繋がりを作ることも重要であるという意見が出た。

さらに、報告書も素晴らしいという意見も出た。記録や振り返りになるだけでなく、PR の材料や次の事業への道しるべとなり、事業のさらなる発展に繋がるものになっていると感じた。

ウ 本日のまとめ

<石川副議長>

まず、報告書が事業の記録や振り返りであるとともに、事業に携わった方の思いがまちの記録となり、地域の次の世代に継承されていくもので素晴らしいと感じた。

また、働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけの前提が何かと考えたときに自分らしさということが重要で、緩やかで自然な繋がりが自分らしさを支えていると感じた。

さらに、決まった枠組みやネットワークに縛られることなく、自然の流れのように緩やかな営みや育みが事業の中で行われており、きっかけづくりの仕組みを作る手がかりになると考えた。

<若原議長>

目的や目標の設定の仕方が特徴的で、明確に目的や目標を定めるのではなく緩やかな目標や思いを共有することを大事にしていると感じた。また、働く世代のきっかけづくりで考えると、自分のためだけでなく、子どもや地域のためという目標を設定することで非常に豊かな活動や学習が生じると感じた。働く世代の生涯学習という新しく何かを見つけるということに目標を設定するよりも、持っている知識や能力を生かすということスタート地点とすることも重要であると思う。

また、繋がりを作るということでは、楽しさやワクワク感が活動の意欲となり、繋がりを広げることになるので、楽しさを生涯学習にどのように組み込んでいくかを考えていきたい。

最後に生涯学習の面で考えると、目的を表に出していくのではなく、生涯学習に繋がる場や環境を作っていくことが重要であると感じた。

4 連絡

令和6年度の学びのネットワークと生涯学習フェスティバルに関する情報を共有した。

5 閉会

まとめシート(Aグループ)

偶然の
つながりをうむ
仕かけづくり

場づくり

同じ(共通)
の目的をもつ

子どものために

できる人が
できることを
やる

まきこむ
いろいろな人を

情報を共有・
広める手段
LINE等

ウェル
ビーイング

おもしろさ
ワクワク感

これまでの経
験から今持っ
ている知識を
実践で活かす
こと

すでに持って
いるモノを生
かせる場づく
り
(学習成果の
活用)

活動する中で
得るものがある

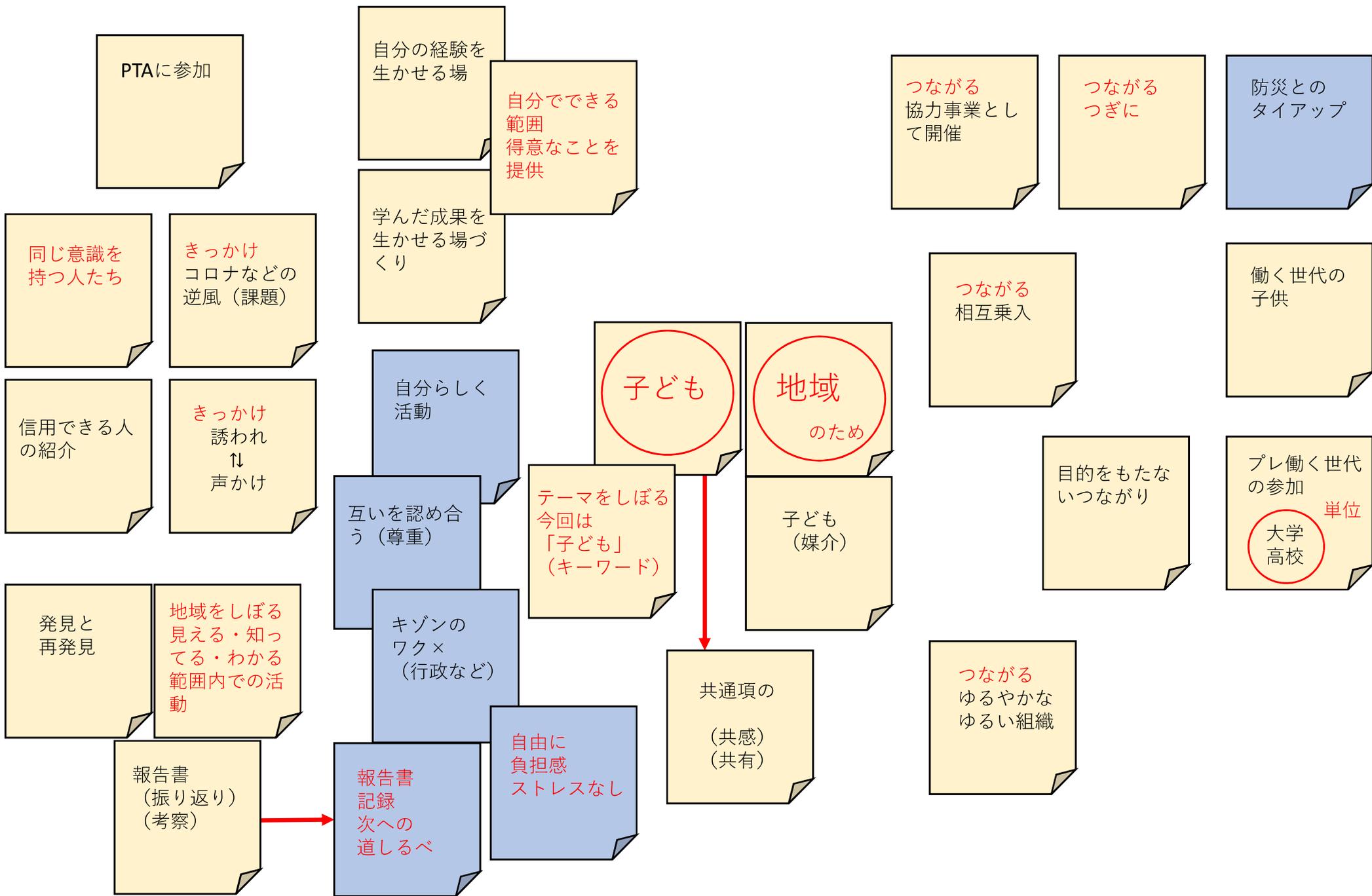
・つながりづ
くり
・意図せず活
動から得られ
る学び

子どもが大人
になったとき
地域につなが
りをもつきっ
かけとなる

リソース探し

「楽しさ」が
人をつなぐ

まとめシート(Bグループ)



第 12 期社会教育委員会議 提言の作成について

1 会議スケジュール

回／開催時期	主な審議内容
第 1 回／令和 5 年 11 月	○ 協議内容について
第 2 回／令和 6 年 1 月	○ 協議内容について ・ 協議テーマの設定 ・ 協議課題の設定 ・ ワークショップ・視察先案について
勉強会／令和 6 年 3 月	○ 第 1 回WS BABA lab・シビックテックさいたま
第 3 回／令和 6 年 7 月	○ 第 2 回WS チャレンジスクール
第 4 回／令和 6 年 9 月	○ 第 3 回WS 認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊
第 5 回／令和 6 年 11 月 今回の会議	○ 協議内容のまとめについて
第 6 回／令和 7 年 1 月頃	○ まとめの内容について（骨子の作成）
第 7 回／令和 7 年 7 月頃	○ 成果物完成の報告

2 協議テーマ・課題

「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」を実現していくための方策について

- (1) 働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり
- (2) 働く世代が地域活動につながる仕組みづくり

3 ワークショップから見えたキーワード

(1) 人と人を結びつける「つながり」について

第1回WS 副議長まとめ	活動を推進する人をサポートする人の存在が重要。団体の中で人と人をつなげるブリッジとなるような人がいることにより、活動が無理なく継続され、地域の中でのつながりが広がっていく。
第2回WS 副議長まとめ	世代や組織、所属を超えたボランティアの担い手同士の繋がりをどう形成していくか。
第2回WS 議長まとめ	つながりをどのように作っていくかが鍵である。現在関わりがなくても、過去の経験を入り口としてつながる可能性がある。

(2) 地域活動につながる「場」について

第1回WS 副議長まとめ	既定の概念にとらわれない自由な空間で人と人が繋がりがあうことが居心地の良さに繋がっている。互いの価値観を認め合うボーダーレスな空間が形成されている。
第2回WS 議長まとめ	多様な方が繋がりがやすい学校という場を生かし、ボランティアの活動で多様な関わり方ができる機会や企業との関わりもできている。
第3回WS 副議長まとめ	緩やかで自然な繋がりが自分らしさを支えている。自然の流れのように緩やかな営みや育みが事業の中で行われている。
第3回WS 議長まとめ	目的を表に出していくのではなく、生涯学習に繋がる場や環境を作っていくことが重要。

(3) 継続の重要性について

第1回WS 副議長まとめ	細く長く続けることがポイントとして挙げられている。一方で、活動を意地でも続けるという話もあった。
第3回WS 議長まとめ	楽しさやワクワク感が活動の意欲となり、繋がりを広げることにもなる。楽しさを生涯学習にどのように組み込んでいくか。

(4) 学習者としての生涯学習について

第2回WS 副議長まとめ	サービスを受ける、提供するというような関係性ではなく、いかにスパイラルを形成していくのか。
第2回WS 議長まとめ	自分たちの取り組みを生涯学習としてどのように理解し、認識するのか、学習者としての在り方を考える機会を設けることも必要。
第3回WS 議長まとめ	自分のためだけでなく、子どもや地域のためという目標を設定することで非常に豊かな活動や学習が生じる。持っている知識や能力を生かすということからスタート地点とすることも重要。

4 協議内容のまとめ

【提言書の構成案】

1 はじめに

本市の生涯学習行政・社会の動き・社会教育委員会議の実施状況等について触れる。

2 「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」を実現していくための方策について

提言の中心となる部分。これまでのワークショップでの話し合いを基に、「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」を実現していくための提言を行う。

(1) 働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり

(2) 働く世代が地域活動につながる仕組みづくり

3 ワークショップの記録

各回ワークショップの実施状況、発表内容等について報告

4 おわりに

第12期社会教育委員会議の全体のまとめ

5 資料編

第12期社会教育委員会議の実施記録等

(1) 第12期社会教育委員会議審議経過

(2) 第12期さいたま市社会教育委員名簿

5 協議内容のまとめについての意見交換

(1) 各委員で各協議議題に盛り込みたい内容を考え、付箋に書き出す。(5分)

WSを振り返り提言に盛り込みたい内容 → 黄色の付箋

新たに追加する提言内容(国等の動向を踏まえて) → ピンクの付箋

(2) 付箋を模造紙に貼り付けながら、各委員が2分ずつ内容を発表する。(35分)

(3) 自身の発表の補足、互いの提言内容についての意見や質問、話し合い。(25分)

(4) 議長、副議長より会議の総括(10分)

～全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開；リカレント教育の推進と社会教育人材の養成・活躍のあり方～

はじめに

第11期分科会までの議論を基に、第4期教育振興基本計画（令和5年閣議決定）を踏まえ、「生涯学び続ける社会の実現及びすべての人のウェルビーイングを目指したリカレント教育」「すべての人のウェルビーイングにつながる地域コミュニティを支える社会教育人材のあり方」についてとりまとめ。

生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

<生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿>

人生100年時代に、経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがい捉える「ウェルビーイング」を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会

<デジタル社会への対応>

デジタル化の恩恵を享受し、誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消

<社会的包摂への対応>

社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献

<生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方>

社会教育の連携分野や担い手が多様化する中、社会教育行政が人々の学習活動の支援を通じて地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材には大きな役割が期待

<生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの>

【初等中等教育】 学ぶ楽しさを味わいつつ、自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む

【高等教育】 自ら課題を設定し、その解決を発見できる自律性を伸ばし、学びを活かして社会を牽引できる人材を育成

【リカレント教育】 職業経験から導かれた問題意識や仮説を自らの意思で学び、成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

今期重点的に議論した事項

1. 社会人のリカレント教育

企業 未来に向けた新たな価値を創造する人的成長投資を行い、キャリアと事業のマッチングを実施。高等教育機関等外部機関との協力の下、生涯を通じた学習及び成長の機会を提供する。また、社員の学び直しの成果に対し、より一層高い評価と処遇で対応

社会人 新しい分野に挑戦する越境経験や、年齢に応じたキャリアプランの設計、主体的にキャリアを形成・選択することが必要。学びそれ自体は目的ではなく手段であり、自らの成長を実感する精神的な豊かさから、幸福や生きがいにつなげる必要がある

高等教育機関 企業ニーズをとらえた魅力的な教育プログラムの開発、社会人が学びやすい教育環境、企業において適切に評価される「学びと成長のエコシステム」を構築が急務

地域社会の知の基盤として、地方公共団体や地元企業などとの連携を強め、地方創生の拠点、学習者同士のコミュニティを創出が必要

今期重点的に議論した事項

放送大学 社会人が学び直すための壁となる「時間」や「場所」の課題に対応、様々な困難な状況にある若年者層への高等教育のセーフティネットや、誰もが遠隔で質の高い高等教育にアクセスできる高等教育機会の実現が必要

専門学校 専門職業人材を対象とした受講者のスキルをアップデートするリカレント教育プログラムの開発、専門学校における高等教育機関としての位置づけの明確化等の制度整備を受け、学修継続の機会確保、社会的評価の向上への対応が必要

学習歴のデジタル化 スキルの可視化や人材流動性向上等のため、NQFの検討や学校段階での修了証明のデジタル化などの取組が有効

2.障害者の生涯学習

多様な主体が連携し、人生のあらゆる段階における多様な学びづくり、特に、学校に通う段階を終えて社会への本格的な参画へ移行する段階で困難に直面することが多いため、学校段階から生涯学習への意欲の向上、社会教育その他、様々な学習機会に関する情報提供が必要

大学での履修証明プログラムを活用した学び、公民館・図書館・博物館、放送大学等、多様な主体が連携したライフワイドの視点での生涯学習機会の提供が必要

3.外国人の日本語の学習

我が国に在留する外国人が急激に増加しており、地域社会の国際化が進む中で、共生社会を構築し、地域社会のコミュニティをより緊密で強固なものとするため、日本語学習・文化理解とともに多文化共生の考え方を育むこと等は重要

日本語教育機関認定制度の着実な実施により、外国人に対する日本語教育の環境整備に取り組む

4.社会教育人材

社会教育の裾野の拡大を踏まえ、学びを基盤とした社会教育活動をオーガナイズできる社会教育人材の質的な向上・量的な拡大を図るため、社会教育人材の養成、活躍促進に係る以下の方策等に取り組む。

- ・社会教育主事講習の受講ニーズの増加を踏まえた講習の定員拡大
- ・多様で特色ある受講形態の促進（オンライン化やオンデマンド化等）
- ・地方公共団体における社会教育主事の配置促進（好事例等の周知、講習の開講促進・定員増加等）
- ・社会教育人材のネットワーク化
等に取り組む

今後の展望

- ・社会教育を必要とする社会情勢は、社会教育法が制定された昭和24年から大きく様変わり。
- ・社会教育の新たな在り方を展望し、社会教育が果たすべき役割、若者を含めた担い手である人材の養成やその活躍の在り方、国としての推進方策等についてさらなる検討が進むことを期待。